

(4) 平成18年の坂井市誕生

平成18年(2006)4月20日 丸岡町、坂井町、春江町、三国町の4町は合併し坂井市が誕生した。福井県の自治体では初めて地域自治区制度を採用し、旧4町と同区域・同名の地域自治区である三国町・丸岡町・春江町・坂井町を設置している。福井県における「平成の大合併」では最後の合併で、坂井市の誕生によって坂井郡は消滅した。市の誕生時点で人口95,172人、世帯数28,746戸、面積209.91km²であった。県内での人口規模では南に隣接する県庁所在地の福井市に次いで2番目となった。南部の春江町・丸岡町は福井市のベッドタウン化が進んでおり、県内で人口増加率が最も高い地域になるかにみえたが、平成21年頃をピーク(平成21年(2009)1月1日現在95,196人)に全国的な少子化・高齢化社会の到来で、人口減少が進んで、令和4年11月30日現在で、高椋地区の人口は7,694人、世帯数2,835戸であった。 詳細は初版本「たかむく玉手箱」を参照

参考資料編 1 明治期から令和期現在までの市町村制度変遷

時代	年号	西暦	変遷事項
明治	2	1869	版籍奉還(6月) ※大政奉還:慶応3年(1867)
	3	1870	幕府領、本多領は本保県へ、郷村制となる(12月)
	4	1871	廃藩置県で丸岡藩は丸岡県へ(7月)、本保県と丸岡県等5県が福井県へ(11月)
	5	1872	区制度で坂井郡域は11の大区と62の小区へ ※8月学制公布
	11	1878	区制から郡制に変わり坂井郡誕生
	14	1881	越前と若狭の11郡が福井県となる。2月7日
昭和 平成	22	1889	市町村制で高椋村誕生
	30	1955	新丸岡町誕生 3月(旧丸岡町と高椋、磯部、鳴鹿、長畝、竹田村の5村が合併)
	18	2006	坂井市誕生(丸岡町、春江町、三国町、坂井町の4町合併)

参考資料編 2 【明治22年の新しい町村】(現在の坂井市・あわら市域)

新町村名	町村数	戸数	人口	新町村名の選定理由	昭和期→平成期
三国町	23	2,233	10,090	三国湊の古称から	(三国町→坂井市)
雄島村	7	879	4,426	三保神社(雄島明神)から	(三国町→坂井市)
加戸村	7	468	2,249	村域内の大字「加戸」から	(三国町→坂井市)
新保村	1	406	1,842	古来の地名「泥原新保浦」から	(三国町→坂井市)
浜四郷村	11	555	2,841	古来の地名「浜四郷」から	(三国町→坂井市/川西町→福井市)
吉崎村	8	970	4,587	村域内の著名な地名「吉崎」から	(金津町→あわら市)
芦原村	11	665	2,862	村域の総称と温泉としての地名から	(芦原町→あわら市)
細呂木村	16	644	3,537	古来の地名「細呂木郷」から	(金津町→あわら市)
劔岳村	6	276	1,380	村域内にある山「劔岳」から	(金津町→あわら市)
伊井村	9	481	2,574	村域内大字「伊井」から	(金津町→あわら市)
本荘村	19	811	—	古来の地名「本荘郷」から (三国町→坂井市/芦原町→あわら市)	
金津町	6	653	3,099	古来の名称から	(金津町→あわら市)
坪江村	21	699	3,442	古来の地名「坪江郷」から (丸岡町→坂井市)/金津町→あわら市)	
長畝村	22	737	3,759	古来の地名「長畝郷」から	(丸岡町→坂井市)
丸岡町	16	804	3,904	古来の名称から	(丸岡町→坂井市)
竹田村	4	236	1,308	古来の通称から	(丸岡町→坂井市)
高椋村	30	1,085	5,463	村域内の各村を灌漑する用水名から	(丸岡町→坂井市)
鳴鹿村	11	399	2,093	村域内の著名な地名「鳴鹿」から	(丸岡町→坂井市)
磯部村	19	556	2,883	古来の地名「磯部郷」から	(丸岡町・春江町→坂井市)
春江村	20	1,042	5,288	古来の地名「春近郷」「江留郷」の頭文字から	(春江町→坂井市)
大石村	14	635	—	村域内の大字「大牧」「石塚」の頭文字から	(春江町→坂井市)
兵庫村	2	316	—	村域内の大字の「兵庫」から	(※大石村が分立後、坂井町→坂井市)
東十郷村	15	793	3,920	村域内の各村を灌漑する十郷用水名から	(坂井町→坂井市)
大関村	7	454	—	古来の大字「大口」「大味」「関」の頭文字から	(坂井町→坂井市)
木部村	17	822	4,216	古来の地名「木部郷」から	(三国町・坂井町→坂井市)

※『福井新報』明治21年11月8日付『新村撰定事由調』、『福井県史』(1922年)参照

戸数は『福井県史』人口は上記『福井新報』、新町村名称の選定理由は『新村撰定事由調』より

以上 平成30年度 坂井市教育委員会 みくに龍翔館学芸員 角 明浩 氏の資料より